

2012年2月15日

# 魅力ある景観は「まちづくり」の資源

(社)埼玉県建築士事務所協会  
景観整備機構 浅野正敏

# 景観とは？

景観は、その場所（地域）の文化や暮らしを現している。

- 熊谷市景観計画にある定義  
私たちが目にするすべての眺めを言い、眺める側の感情を伴った視点を持って捉える。
- わかりやすい「堀 繁」氏の講演による定義  
視点場（見ている場所）と対象（見たいもの）との関係。  
良い景観とは、見ている者に「もてなしの心」を感じさせる状態。

# 景観保全への取り組み

- これまで全国各地で、美しい自然と調和した景観、人々の生活や文化から育まれてきた歴史的な景観を、「条例」などによって守ってきたが限界があった。
- 都市計画法では、「美しさ」の観点が抜けている。
- 国の「美しい国づくり政策大綱」での反省と決意。
- 景観に関する総合的な国の法律として景観法が制定（平成16年）されたのは、画期的なこと。

# 景観法の 制定背景

国はこれまで、既に良好な景観が形成されている地区、古都や文化財といった特別な地区、地域の一定の合意に基づく地区等について、形態意匠の規制が可能となる仕組みを推進

- 大正8年「風致地区」、「美観地区」制度創設
- 昭和41年「歴史的風土保存区域」、「歴史的風土特別保存地区」制度創設
- 昭和50年「伝統的建造物群保存地区」制度創設(文化財保護法)
- 昭和55年「地区計画」制度創設

## 今までの取組

- 500弱の地方公共団体が自主条例として景観条例を制定するなど、地方公共団体において積極的に景観の整備・保全の取組みを行っている。

## 今までの取組の限界

- 景観を整備・保全するための国民共通の基本理念が未確立
- 自主条例に基づく行為の届出勧告等のソフトな手法の限界  
⇒ 景観をめぐる訴訟の提起
- 地方公共団体による自主的取組みに対する、国としての税・財政上の支援が不十分

「美しい国づくり政策大綱」  
(平成15年7月国土交通省)

「観光立国行動計画」  
(平成15年7月観光立国関係閣僚会議)

全国景観会議、景観形成推進協議会等の要望

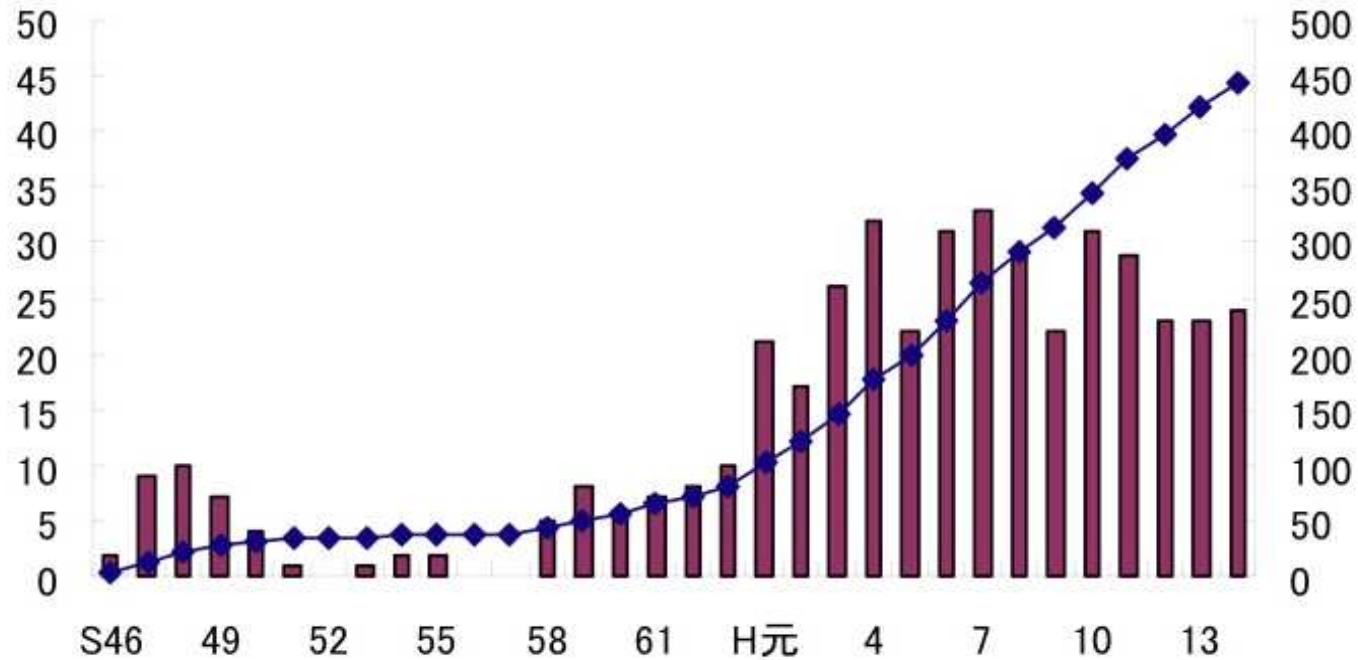
『都市景観の日』中央行事2003年宣言

## 必要性

- 景観を正面から捉えた基本的な法制を整備し、
  - ・ 景観を整備・保全するための基本理念の明確化
  - ・ 国民・事業者・行政の責務の明確化
  - ・ 景観形成のための行為規制を行う仕組みの創設
  - ・ 景観形成のための支援措置の創設 等

により、**景観の意義やその整備・保全の必要性を明確に位置付けるとともに地方公共団体に対し、いざという場合の一定の強制力を付与することが必要**

## 景観条例制定市町村数の推移



■ 年間策定市町村数 (左目盛り)

◆ 策定市町村数累積 (右目盛り)

(出典) H15年度版土地白書より

国土交通省が市町村を対象に行ったアンケート調査(平成14年7月実施)

# 小布施町の 景観条例



## 『環境デザイン協力基準（骨子）』

### 1. 建築するとき、

- ・建物の外観と色は、周辺の景観に合わせる。
- ・特に、屋根の形状は、気候・風土面から陸屋根を避ける。
- ・道路と接する敷地部分は極力緑化し、道を利用する人にもうるおいの景観とする。
- ・道路沿いの塀は生け垣などで緑化する。
- ・車庫、物置など外から見えるものは、位置と色を工夫する。

### 2. 美しい町並みをつくるために、

- ・広告物は色彩や大きさ等に配慮する。
- ・大規模な建築や工作物を造るときは、配置や形態に配慮する。
- ・建物の道路面にはゆとりの空間を配慮する。
- ・駐車場の出入口は歩行者に配慮する。

### 3. 花のある美しいふるさとの景観を育てるために、

- ・家庭、職場及び公共の用地に花や緑を増やし、うるおいのある空間を広げる。
- ・空き地及び道路沿いに花木を植え、美しいふるさとの景観を育てる。

# 真鶴町の まちづくり条例 『美の基準』

## ■真鶴町の美の8原則と基本的精神

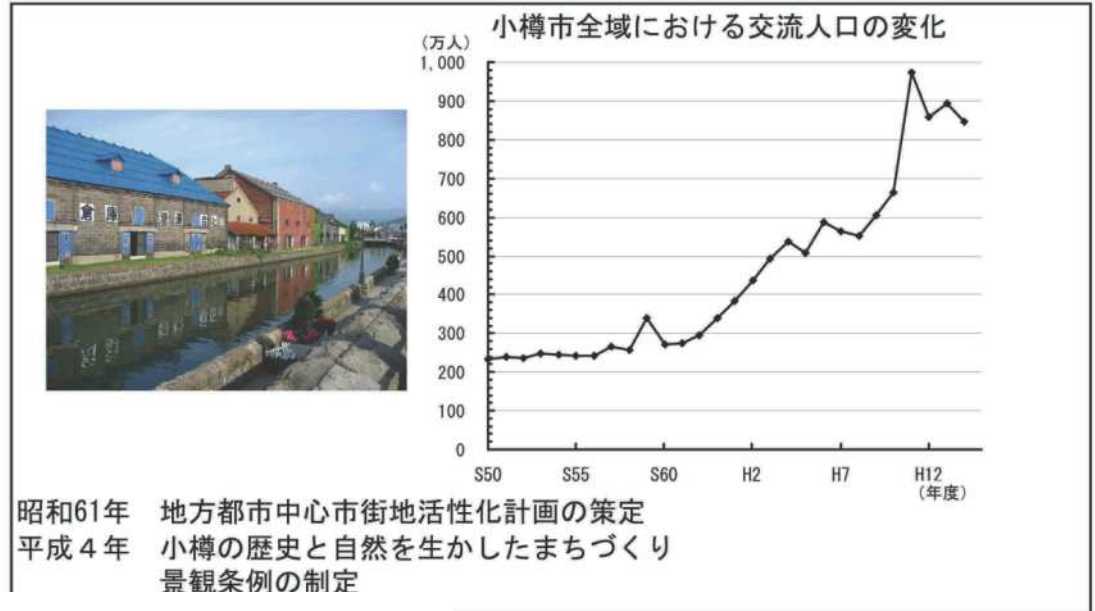
- ①場所 場所を尊重し、風景を支配しない
- ②格づけ 私たちの場所の記憶を再現し、町を表現する
- ③尺度 基準は人間。人間と調和し周囲の建物を尊重
- ④調和 青い海と輝く緑の自然、町全体とも調和
- ⑤材料 町の材料を活(い)かして作る
- ⑥装飾と芸術 装飾が必要で芸術との一体化を
- ⑦コミュニティ コミュニティを守り育てる
- ⑧眺め 美しい眺めを育てるためにあらゆる努力を



# 景観条例制定 と交流人口

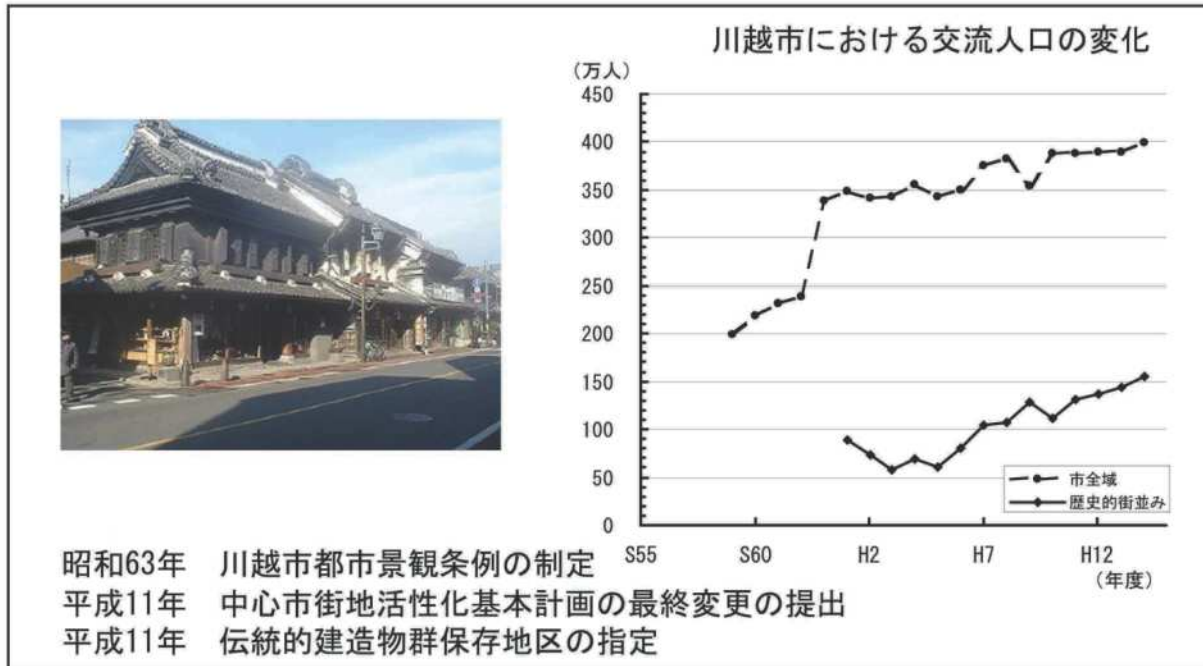
小樽市（北海道）

234万人(S50)⇒847万人(H14)



川越市（埼玉県）

199万人(S59)⇒399万人(H14)



良好な  
景観形成  
の効果



# 全国各地に起る景観闘争(鞆の浦、国立など)



鞆の浦の漁村景観



国立駅前大学通りの景観



44mのマンション



# 景観法がめざす「良好な景観」づくり

■美しく風格のある国土の形成

■潤いのある豊かな生活環境の創造

■個性的で活力ある地域社会

「良好な景観」定義は、以下の5つ基本理念に基づいている。

1) 「良好な景観」は現在及び将来における共通資産

2) 景観形成には、地域の自然、歴史、文化等と人々の生活、  
経済活動等との調和が不可欠

3) 景観形成は、地域の個性を伸ばすよう多様な形成を図るべき

4) 景観形成には、観光や地域の活性化への配慮が必要

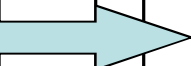
5) 景観形成は、住民、事業者、行政の協働により進めるべき

# 景観法とはどのようなものか？

## 1) 基本法的な部分

- ・基本理念
- ・国、地方公共団体、事業者、住民の責務

ここに着目



## 2) 良好な景観形成のための具体的な規制や支援を規定する部分

- ・景観計画の策定
- ・景観重要建造物・樹木の指定
- ・景観計画区域、景観地区等の規制
- ・景観重要公共施設の整備
- ・景観協定の締結
- ・景観整備機構による支援

# 景観法の対象地域イメージ図



# 景観法を活用するためには大前提がある

※景観行政団体でなければ「景観法」を運用出来ない。

景観行政の一元化と、意欲のある市町村が景観行政の担い手となるために！

景観行政団体とは？ ※( )は埼玉県における景観行政団体  
都道府県(埼玉県)、および政令指定都市(さいたま市)、中核市(川越市)は自動的になる。  
その他の市町村は、知事との協議・同意により景観行政団体になれる。(現在、秩父市・戸田市・八潮市・草加市・川口市・新座市・三郷市・熊谷市・志木市・越谷市・春日部市・和光市・所沢市の13市。これ以外の地域は、当面、県が景観行政団体となる。)

# 建築士の職能を活かす出番到来

- これまでプロの建築士であるにも拘らず、ボランティア的な関わりとならざるを得なかった。
- 景観法の設立により、法律に則った「景観整備機構」として、景観・まちづくりに建築士が得意な職能を活かすことが出来るようになった。
- 公益法人やNPO法人を景観行政団体が指定。



(社)埼玉県建築士事務所協会は「景観整備機構」指定をめざして逸早く申請、平成20年11月付けで埼玉県第1号の指定を受ける。

# 景観整備機構の指定

現在、(社)埼玉県建築士事務所協会/景観整備機構では、埼玉県に続いて川口市・熊谷市の指定第1号を受けている。

- 川口市指定第1号 平成21年6月付け
- 熊谷市指定第1号 平成22年6月付け
- その他の景観行政団体(三郷市、八潮市など)にも  
手続きを進めている。

# 景観整備機構の業務(1)

景観法の中で、景観整備機構が行うことができる業務として以下が明記されている。

- 景観育成に関する派遣、情報提供、相談等の支援
- 景観重要建造物・樹木の管理
- 景観重要公共施設等に関する事業(ポケットパークの整備等)の実施、又は参加
- 同上事業のための土地取得、管理及び譲渡
- 景観農業振興地域整備計画区域内の委託に基づく農作業、土地の権利取得、管理
- 景観形成に関する調査研究
- その他、景観育成促進のために必要な業務



# 景観整備機構の業務(2)

その他、当景観整備機構が取り組むべき業務は多様にある。

- 景観計画の策定業務(景観行政団体からの受託)
- 景観計画区域や景観地区の基準づくりを市民と協働で作成
- 景観計画策定委員会、景観審議会等へ委員として派遣
- 住民の景観意識啓蒙のためのイベント企画・運営・実施
- 景観上重要な歴史的建築物の利活用・運営のための調査及び方策の検討
- 景観に関する調査・研究及び提案

# 人材育成のための実務者講習会



景観理念や景観法について、年間4～5回の講習会を開催

# 景観まちづくり先進地区への現地視察研修



代官山ヒルサイドテラス



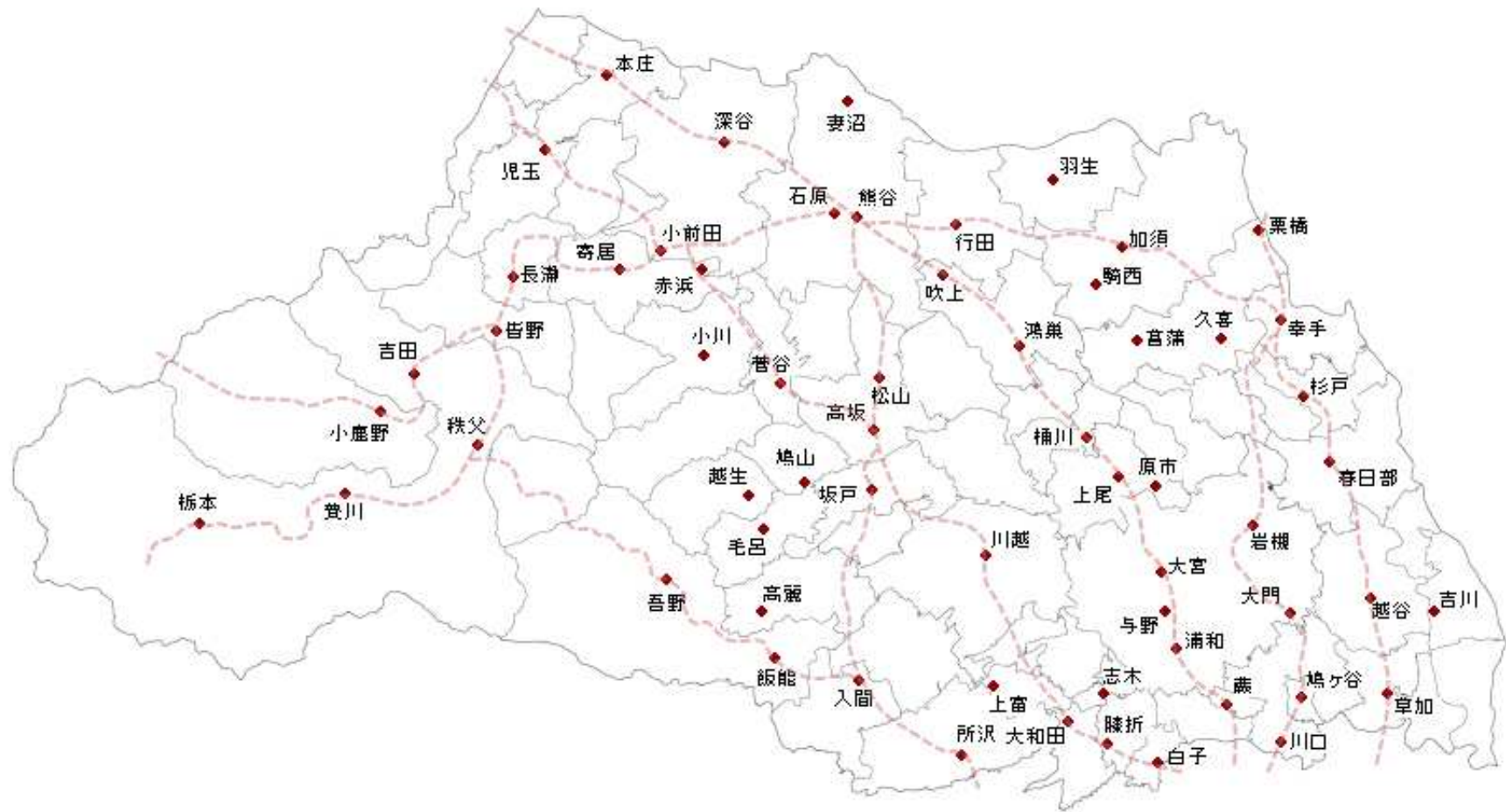
# 埼玉県景観資源発掘調査業務(平成22年度受託)

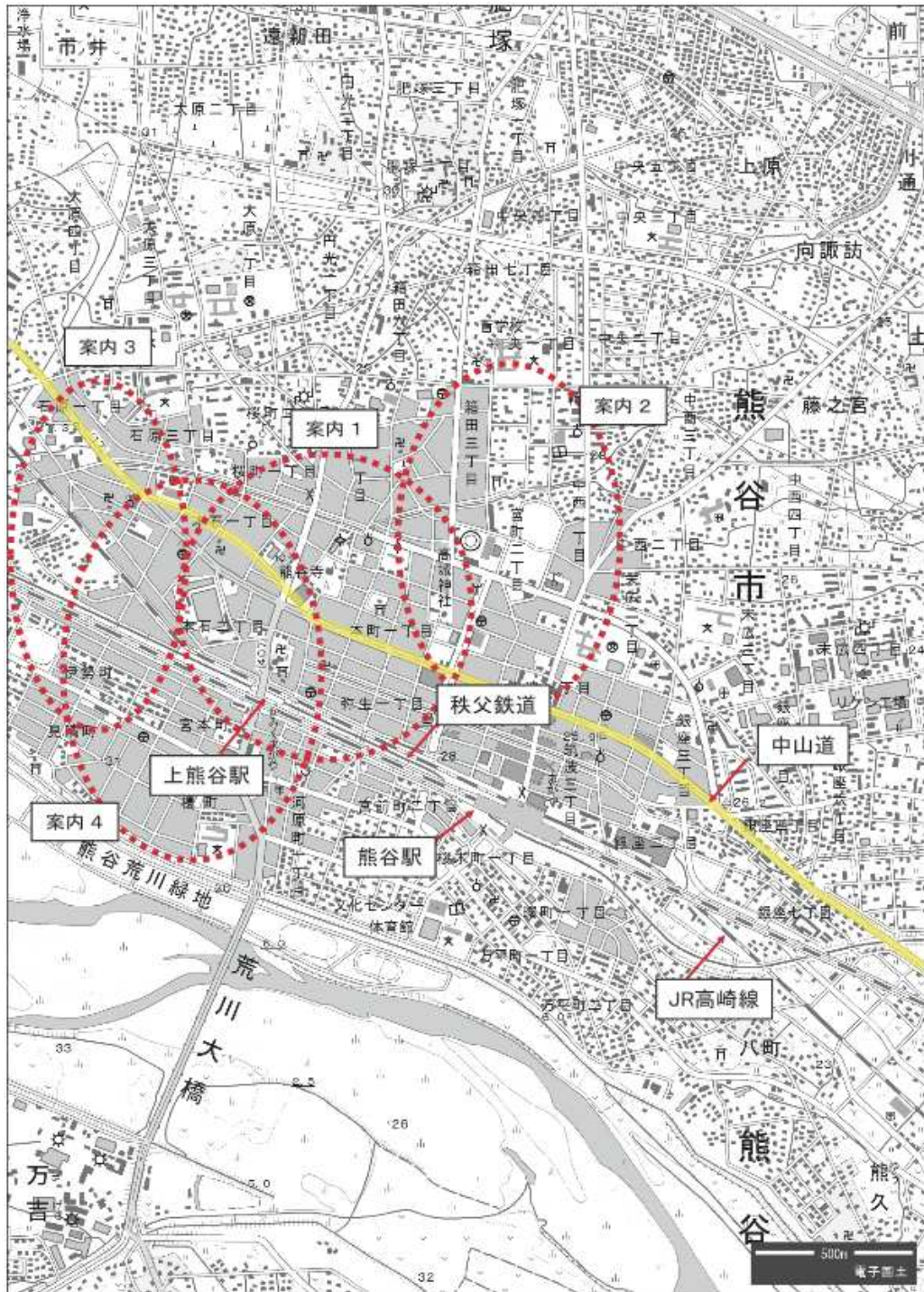


調査データは埼玉県のホームページに掲載されている。



# 歴史のみち景観発掘 埼玉県下61カ所調査





熊谷駅周辺  
調査位置図

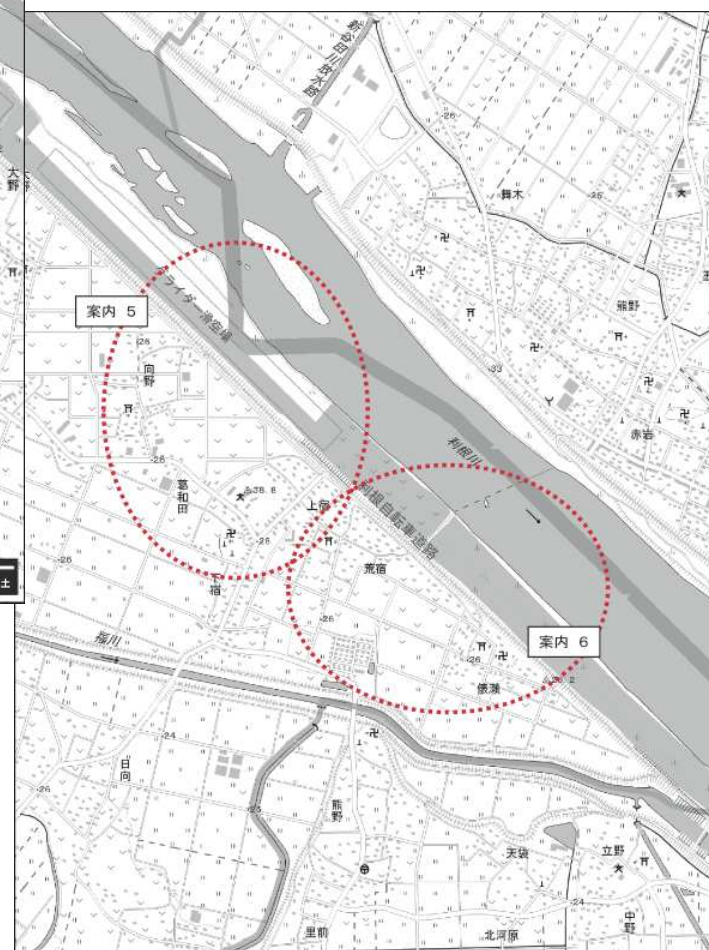
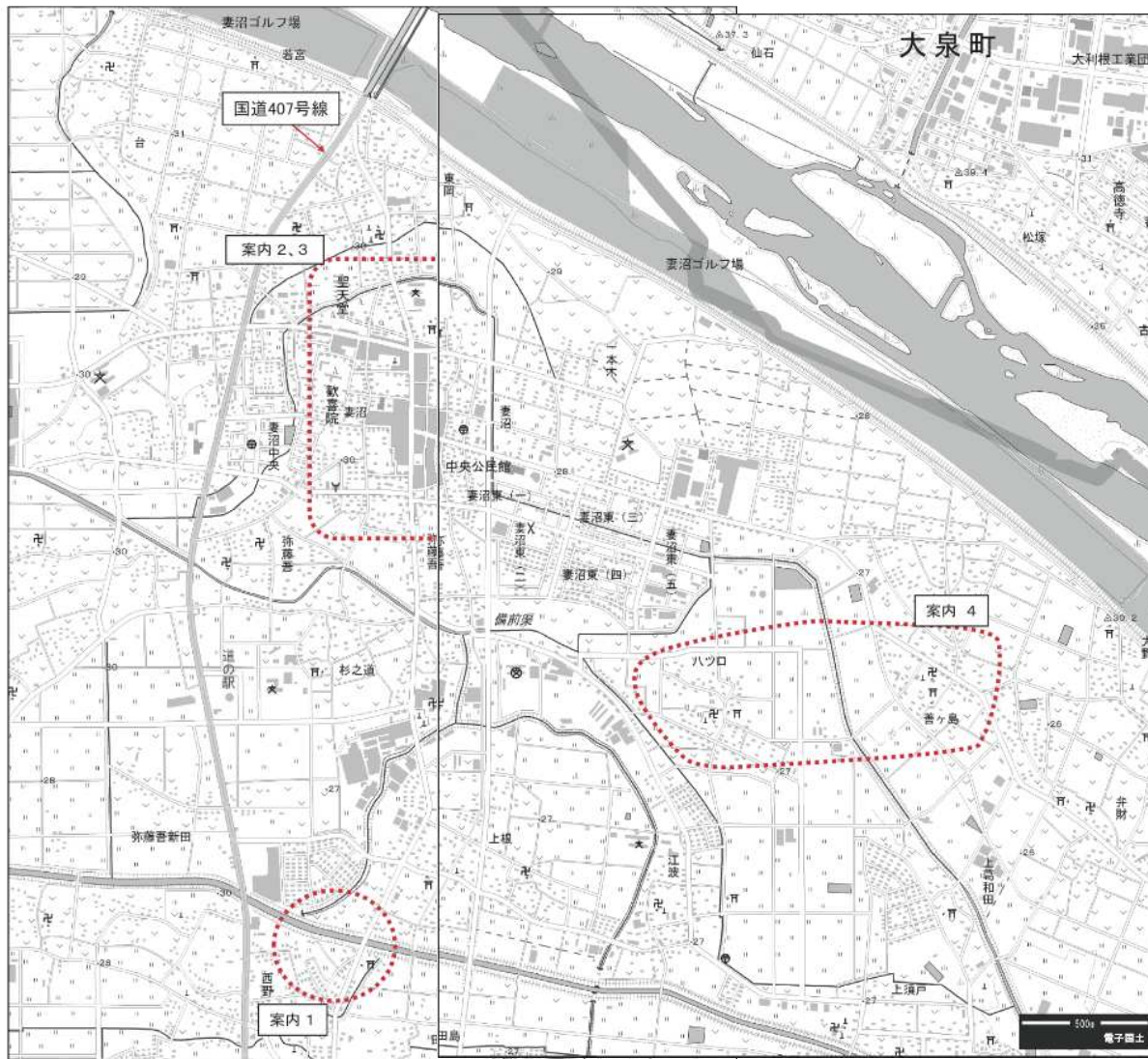
熊谷		
熊谷市指定文化財屋溪園		
 <p>中山道で八番目の熊谷宿は大きな宿場町であった。北部を利根川、中央部を荒川の清流が流れ、恵まれた肥沃な土壌と自然条件から豊かな農地を授かると共に、江戸時代から商業が盛んで、現在も県内有数の商業都市でもある。また、昭和30年代から工場の誘致が盛んに行われたことから、工業の面でも発展が見られ、産業のバランスの取れた都市となっている。県内唯一の戦災指定都市で、終戦前夜の城壕は周知の事実である。 (写真は熊谷市鎌倉町付近)</p>		
1	2	3
ポケットパーク	17号国道無電線化	高札場跡
 <p>さいたま博通りを北に向かう途中の三叉路に一本の大きな樺がある。</p>	 <p>かつてはアーケードがあった。電線を地下に通したため、遮るもの無くなった空は広い。</p>	 <p>高札とは控、条目、禁令などを板に書いた掲示板であり、この場所に掲示されていた。現在高札は、本陣であった竹井家に14枚残っている。</p>
4	5	6
本陣跡	高城神社参道	-1 高城神社 御神木
 <p>諸大名、公家などのための特別な旅館が「本陣」。熊谷本陣は規模、構造共に全国屈指のものだった。</p>	 <p>縁結び、安産の神様。熊谷のみならず、大里地域の総鎮守。6月に行われる治内くぐりでも有名。</p>	 <p>樹齢800年以上といわれる樺の御神木。</p>

6	7	8
-2 高城神社 常夜灯	千形神社	陣屋跡
 <p>青銅製の常夜灯は、天保12年に150人ほどの紺屋により奉納されたもの。</p>	 <p>熊谷直実によって建立されたとも伝えられる古社。</p>	 <p>忍藩に属していた当時、町方事務を取り仕切るための出張所。このあたりを陣屋町と呼ぶ人もいる。</p>
9	10	11
長屋門	聖パウロ教会	熊谷寺
 <p>立派な長屋門がある。長屋門の隣には、夏目漱石の小説「坊ちゃん」のモデルと言われる教師の住居跡がある。</p>	 <p>大正ロマンを感じさせる礼拝堂は、大正8年建立。総レンガ造りの教会。</p>	 <p>熊谷寺は、出家後の熊谷直実が蓮生法師として往生した場所であることから、山号を蓮生山と言う。参拝は、要予約。</p>
12	13	14
竹藪のある裏路地	奴稻荷神社	旧中山道跡碑
 <p>熊谷寺裏手の塚。青々とした竹林が美しい。</p>	 <p>鎌倉時代に建立され、子育ての神・高売繁盛の神として広く知られている。駅からほど近い街中にありながら、ひっそりとした木漏れ日に包まれたお社は、時間を忘れさせる。これからも大切に守ってゆきたい景色である。</p>	 <p>デパートの国道側出入口前にある「旧中山道跡」の碑。その横には宮沢賢治が熊谷を訪れた時に詠んだ歌の碑がある。戦後途切れてしまった中山道上にデパートができた。</p>

<p><b>15</b> 旧中山道跡碑</p>  <p>デパートの中の中山道を通して西人口から外に出ると、ここにも「旧中山道跡」碑が立てられている。</p>	<p><b>16</b> 一番街三叉路</p>  <p>中山道は右側の道で、現在は一番街通りとして商店が建ち並ぶ。</p>	<p><b>17</b> 松厳寺</p>  <p>ゆくゆく年の除夜の鐘を市民に撞かせてくれるお寺。</p>
<p><b>18</b> 片倉シルク</p>  <p>製糸工場であった頃の蔵倉庫を利用した記念館。2007年11月、近代化産業遺産に認定。</p>	<p><b>19</b> 店舗</p>  <p>レトロな景観の自転車屋さん。地元の人には文化町通りと呼んでいる。</p>	<p><b>20</b> 八坂神社 本殿</p>  <p>関東最大の祇園祭といわれる「うちわ祭り」はこの神社のお祭りで、市内を巡る神輿の出発点でもある。祭りに由来する石碑や、清々しい境内は、小さいながらも大切にされている。</p>
<p><b>21</b> 正一位宇佐稲荷神社</p>  <p>八坂神社のお向かいの稲荷神社。朱色がきれい。</p>	<p><b>22</b> 蔵</p>  <p>17号国道と本町通りの間の裏通りで見かけたコンクリートブロック積み蔵。</p>	<p><b>23</b> 星溪園</p>  <p>熊谷市指定文化財。熊谷の発展に尽力した竹井瀧如翁によって、慶応年間から明治初年にかけて造られた星溪園。清らかな水が湧き出る「玉の池」を中心にした回遊式庭園で、三棟の数寄屋建築は格調高く静かな佇まい。</p>

	<p><b>25</b> かめの道</p>  <p>二匹の亀がお出迎えしてくれるかめの道。 昭和58年に廃止された東武鉄道熊谷線の敷地跡に作られた公園。 熊谷線が「かめ号」の名称で親しまれていたことからこの名前になった。</p>	<p><b>26</b> 線路沿いの丘</p>  <p>かめの道をずっと歩いてゆくと小さな丘が現れる。かつて熊谷線の高崎線と交差していた所に築堤が作られており、その名残である。 見晴らしの良い丘は散歩に最適。線路を見下ろして、目を凝らせば向こうの丘に「クマガヤ」の文字が見える。</p>
<p><b>27</b> 星川</p>  <p>熊谷の中心市街地を流れる星川は古くから市民の憩いの場として親しまれている。 星溪園の「玉の池」から湧き出る清流が注ぐ水面を、時折魚影が通り過ぎる。</p>	<p><b>28</b> 熊谷女子高等学校</p>  <p>第二次世界大戦終戦直夜の熊谷大空襲により、市街地の三分の二が消失した。 それでも焼け残った、レンガ造りの当時の女子高の北門。</p>	<p><b>29</b> 箱田神社</p>  <p>夜籠の高い木々に囲まれた、静かで深い居心地のいい神社。</p>
<p><b>30</b> 用水路のある風景</p>  <p>市役所のほど近くの住宅地に用水路が流れる。フタもガードレールもなく、所狭しと住居が立ち並ぶ。各々、玄関までは用水路に架かった小さな橋を渡っての出入りをする。その分、閉鎖的な中にも情緒深い光景を醸し出す。近年、流れる水が澄んできています。</p>	<p><b>31</b> 花街の名残り</p>  <p>大正時代の私娼街。モデルは吉原仲之町でこの通りに妓楼が建ち並んでいたという。ほんの百数十メートルのひと区画だけ急に道路幅が3倍になっている。それらしき建築物はもはや1、2軒。</p>	<p><b>32</b> 門塀</p>  <p>千形神社から熊谷寺へ向かう短い道、存在感のある門構えのある住宅。 この重量感のある門塀は、それだけでいつでも堂々と出迎えてくれることであろう。</p>





妻沼周辺調査位置図

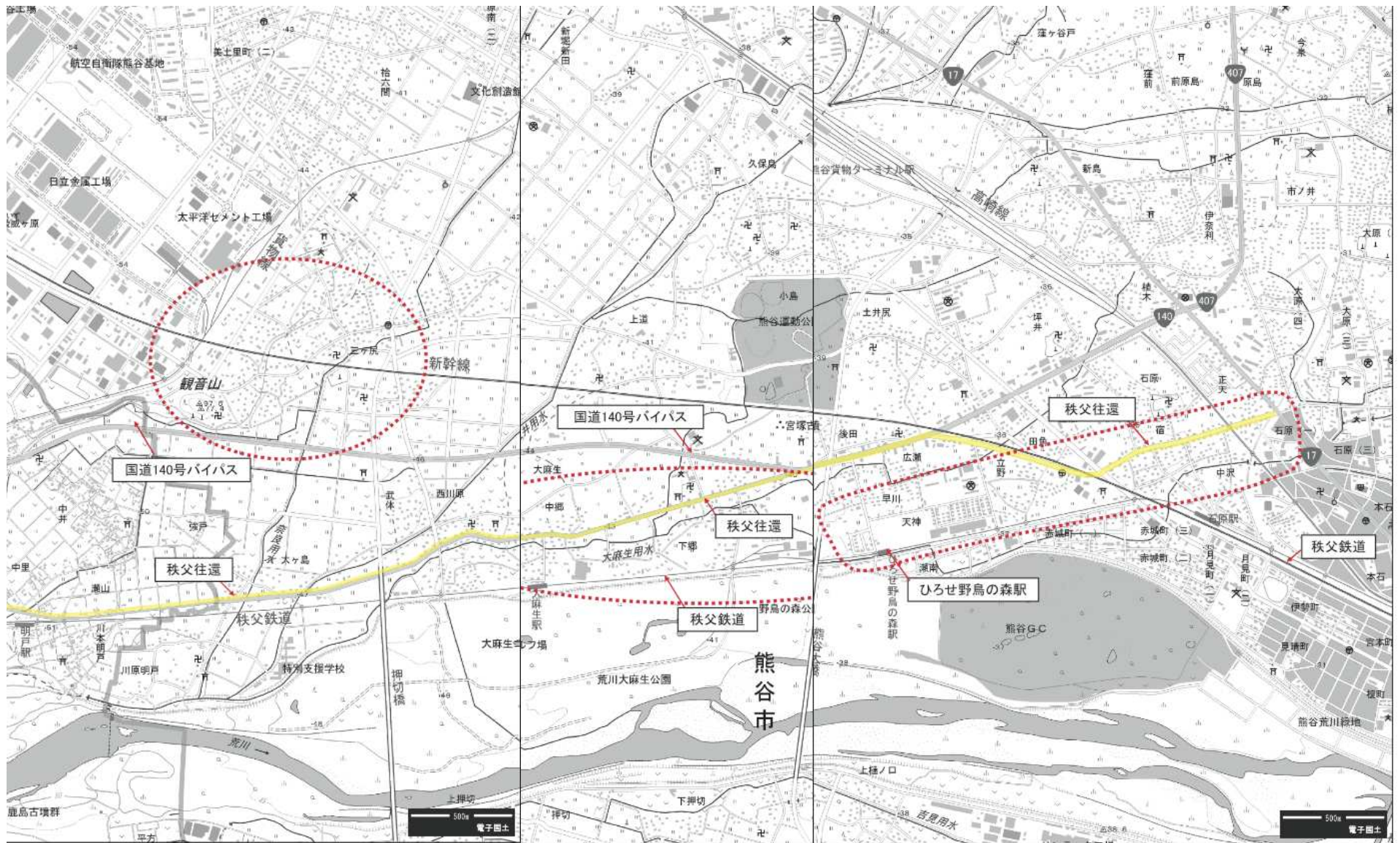
妻沼		
 <p>平安時代末期の名将、齋藤別当実盛公が祀ったといわれる聖天山を中心に門前町として栄えた妻沼は、江戸時代になると水運の発達により利根川の渡船場が賑わい、市なども立ったという。新田往還へ続く宿場でもあり、上州に向かう徳川家康が聖天山に参詣したという記録も残る。</p> <p>また、古い街並みを生かそうと地元のもの店が中心となって企画された『手作り市』がある。文化財を使用した映画やドラマ撮影の誘致にも積極的である。</p> <p>(写真は旧妻沼町妻沼)</p>		
1	2	3
<p><b>1 萩野吟子史跡公園</b></p>  <p>日本初の公認女医として知られる萩野吟子女史の生誕地。展示館は、彼女の生家を模した建物で、木造平屋建て寄棟造。</p>	<p><b>2 大龍寺</b></p>  <p>元和元年(1615)に開山した浄土宗の寺。</p>	<p><b>3 葛和田渡船場</b></p>  <p>戦国時代の文獻にも登場する渡し船は500年以上にわたり貴重な交通手段であった。江戸時代になると水運が発達し、町には市が立つなど賑わった。現在も渡し船『千代田丸』が運行しており、運賃は国道なので無料。</p>
4	5	6
<p><b>4 グライダー滑空場</b></p>  <p>利根川の河川敷に広がる滑空場は滑空時間、飛行回数共に日本一を誇り全国約60校の大学生が飛行訓練に励んでいる。田んぼの中でふと見上げれば、青空を優雅に舞うグライダーを見る事ができる。</p>	<p><b>5 竜泉寺の観音堂</b></p>  <p>県指定文化財の観音堂は、三間四面方形造。自然石の礎石に丸柱を立て、切目長押、内法長揮、頭貫、台輪で固める工法から江戸初期のものと推定される。</p>	<p><b>6 長昌寺と椎の木</b></p>  <p>齋藤別当実盛公が植えたと言われる椎の木は樹齢800余年、高さ約9.1m、枝張り周囲約5.7m、市の天然記念物に指定されている。五本の支柱に支えられ、悠々と生きる。</p>

妻沼-10

7	8	9
<p><b>7 長井神社</b></p>  <p>平安時代、源頼義が奥州に向かう途中で滞在した場所と伝わる神社。部下に命じて、この地に住み着いていた大蛇を退治してくれたという言い伝えが残る。</p>	<p><b>8 齋藤実盛館跡</b></p>  <p>かつてこの地域を治めていた齋藤別当実盛公の館があったといわれる。現在はその名残は無く、堤防のすぐ裏にひっそりと残る。福川と民家の狭間に4本の桜の木が扇を広げ、土手に上がれば清々しい光景が広がる。</p>	<p><b>9 旧坂田医院診療所</b></p>  <p>国指定登録有形文化財。昭和6年建築の産科医院。RC造陸屋根平家建、正面はスクラッチタイル貼り。昭和初期のモダンスタイルの洋館は、地方近代建築の遺構を残すものとして貴重な建物である。</p>
10	11	12
<p><b>10 井田記念館</b></p>  <p>かつては全国シェア75%を占めた『メスマボマード』の創立者、井田友平氏の旧宅。旧坂田医院の程近くに移築されており、どちらも映画やドラマの撮影に使われている。商工祭等のイベントの際には一般公開もされる。</p>	<p><b>11 両宜塾跡</b></p>  <p>妻沼町指定文化財。万延元年(1860)に俳学者寺門静軒が開塾した学校。対象は普通の寺子屋のように子女に手習いを教えるのではなく、この地方の有志者が対象であった。萩野吟子女史も在籍していたが昭和4年に取り壊された。</p>	<p><b>12 大我井神社</b></p>  <p>明治まで聖天山と混記されていたが、明治の神仏分離に際し、新たに神殿を造営し、祀りなおした神社。妻沼地区の総鎮守として地域の人に親しまれており、勇壮な火祭りでも知られる。</p>
13	14-1	14-2
<p><b>13 路地裏の大樹</b></p>  <p>大我井神社から路地裏に入っていくと大きなケヤキの木が見えてくる。</p>	<p><b>14-1 聖天山 境内</b></p>  <p>本殿は国指定重要文化財。日本三大聖天のひとつで、聖天様とも呼ばれ、縁結びの寺として知られる。左甚五郎の作をはじめ、多数の彫刻が施された荘厳華麗な本殿は見事で、別名埼玉の小日光とも云われる所以。写真は中門の西脚門。</p>	<p><b>14-2 聖天山 貴徳門</b></p>  <p>国指定重要文化財。聖天山第一の山門。嘉永4(1851)年竣工。高さ16m、3つの屋根の破風を組み合わせた重厚な造りが特色。この様式は日本で3棟現存するが、規模では全国に例を見ない。</p>

妻沼-11

<p>14 3 平和の塔</p>  <p>戦没英霊の供養と、世界恒久平和達成の祈願によって、昭和33年に建立された。手前の赤い太鼓橋と木々の緑に囲まれた多宝塔は大変美しい。</p>	<p>15 歡喜院の門と塀</p>  <p>斉藤別当実盛公が長井庄(妻沼)の総鎮守として聖天宮を建立したのち、その次男である良応僧都が聖天宮の別当寺院(本坊)を建立し、歡喜院長樂寺を建立した。</p>	<p>16 店舗</p>  <p>聖天様の境内にある店で、うどん、蕎麦のほか、夏にはオリジナル雪くま(かき氷)もある。古民家風の建物は落ち着いた色合いである。</p>
<p>17 店舗</p>  <p>通常の倍の長さが特徴の妻沼の稲荷寿司は、200年以上の歴史があるといわれる。古民家風の店舗は並び建つお店とともに時を刻んでいる。</p>	<p>18 旅館</p>  <p>田山花袋の小説『残雪』にも出てくる割烹旅館。店の横には大きな蔵が控えており、年季の入った一枚板の看板が歴史を思わせる。</p>	<p>19 店舗</p>  <p>明治から続く140年以上の歴史を持つお茶屋さんは、戸を開ければわりとお茶の香りに包まれる。歴史ある建物に、現代の感性が交じり合った店内は、懐かしいのに新しい雰囲気。</p>
<p>20 門前町の名残</p>  <p>聖天様を中心に栄えた妻沼には古い建物が多く残る。聖天様南通りと呼ばれるこの通りには、築100年の蔵を改築した店舗をはじめ、手作り豆腐店、和菓子屋など、昔ながらの門前町の面影を今に伝える。</p>		



石原・川本(秩父往還)調査位置図

石原・川本(秋父往還)		
 <p>秋父往還跡碑</p> <p>秋父往還は秋父經由で武蔵の国と甲斐の国を結んでいた旧街道で、熊谷宿の北西の石原で中山道と分かれ、寄居を経て秋父に至る約40kmの街道。現在の国道140号は別名『彩甲斐街道』とも呼ばれる秋父鉄道の沿線である。秋父札所への参拝道・秋父編取引の商人が往来した絹の道、秋父代官所があった忍藩の公用路、そして近隣の町村を結ぶ生活道でもあった。</p> <p>(写真は秋父鉄道武川駅付近)</p>		
1	2	3
<p><b>秋父道みちしるべ3基</b></p>  <p>県指定文化財 秋父往還はじまりの地は中山道との分岐点。しるべの3基は東武熊谷線の廢線跡の公園「かめのみち」に建っている。 ・秋父道西方部へ11里 ・巡礼道西方部一番まで11里 ・宝登山まで8里19町</p>	<p><b>赤城久伊豆神社</b></p>  <p>新幹線高架をくぐったところに周囲と一線を画して鎮座している。熊谷市石原の氏神様であり、埼玉の「ふるさとの森」に指定されている。大きな農地改革記念の碑がある。</p>	<p><b>ひろせ野鳥の森駅</b></p>  <p>開業8年ほどの新しい駅。山小屋風の駅舎は、天窓や大きなガラス板を多用して、自然光が沢山入る造りになっている。背後に高層建築がそびえる傍ら、徒歩数分の位置には“野鳥の森”が広がる。</p>
4	5	6
<p><b>大麻生駅</b></p>  <p>そこにずっとあって、変わらずに居続けてくれそうな安心感のある懐かしい駅舎。 駅から奥宮荒川大麻生運動公園ゴルフ場がみえる。</p>	<p><b>大栄神社</b></p>  <p>大麻生地区の中郷・武体・西川原の氏神様。屋根が檜葺な大社造の本堂は、比較的年代が新しい。</p>	<p><b>酒造</b></p>  <p>県道47号沿いの三ヶ尻郵便局の近くに古い家屋が残る集落がある。その中に心地よく建っているのが、創業1850年の蔵元。</p>

7	8	9
<p><b>観音山・ふるさと公園</b></p>  <p>140号バイパス北側のこの三ヶ尻地区は、見渡す限り田んぼ。その中に低い山がぼつんとうずくまっている。この山は残丘といひ、河川が削り残したため生じた丘。埼玉県北部のこのあたりは大昔から荒川が入り乱れて流れていたという。</p>	<p><b>竜泉寺</b></p>  <p>一般に「三ヶ尻の観音様」と呼ばれ親しまれている。古くはこの地へ嫁にきた新妻たちが結につれられ正装して参拝したため「よめご観音」とも呼ばれた。</p>	<p><b>秋父往還石碑</b></p>  <p>秋父鉄道武川駅から南東へ300mほどの大きな交差点の脇に秋父往還跡の石碑がある。</p>
10	11	12
<p><b>永田駅</b></p>  <p>開業は大正2年。 駅舎は木造平屋建てで青色のトタン屋根にサイディング張りの外壁。</p>	<p><b>六堰(ろくぜき)頭首工</b></p>  <p>堰とは河川や湖沼に設けられた水をせき止める構造物。 老朽化のため平成14年に改修工事を終えた六堰頭首工は橋の機能も備え農業の生産性と向上と防災、更に景観を重視し動植物との共存も推し進めるための設備となった。</p>	<p><b>畠山重忠史跡公園</b></p>  <p>源頼朝に仕え、武士の鑑といわれた畠山重忠を偲ぶ史跡公園。馬をかつぐ重忠の像は迫力がある。</p>
13	14	15
<p><b>豊栄神社</b></p>  <p>拝殿内には無形民俗文化財指定『黒田ささら獅子舞』の獅子頭が6頭保存されているという。例大祭は10月の第2週末にあり、ささら獅子舞が奉納されている。壊れたまま保存されていた神輿を修復、2010年から祭りに復活させるなど、地域の保存会に活気がある。</p>	<p><b>住宅</b></p>  <p>県指定有形文化財。 建築物も立派で趣があるが、こちらに所蔵される文書も県指定文化財で、鉢形城主北条氏邦の発給文書9点と近世初頭の地方文書4点が対象になっている。</p>	<p><b>旧北根代官所</b></p>  <p>県指定史跡 規模は間口11間奥行5間。茅葺き寄棟造の農家風建築であるが、内側に白州や馬小屋をもっており、居宅の外に土壘や門、空堀なども認められる。民衆支配の一端をうかがうことのできる貴重な遺跡、地域振興施設である。</p>

# (社)埼玉県建築士事務所協会いるま西 支部の積極的な活動

- 平成18年より飯能市エコツーリズム推進事業に参画、建築文化の保存と活用を考える「古民家探訪エコツアー」を実施。
- 平成23年9月に行った「大正・昭和の建築を訪ねる旅」で12回目を数える。

# 飯能市街地にある明治～昭和の建築を訪ねる旅（1）



# 飯能市街地にある明治～昭和の建築を訪ねる旅（2）





## 茅葺きの民家を訪ねる旅（3）



## 名栗谷に残る古民家を訪ねる旅（4）



# 吾野宿の町並みと建築を訪ねる旅 (5)

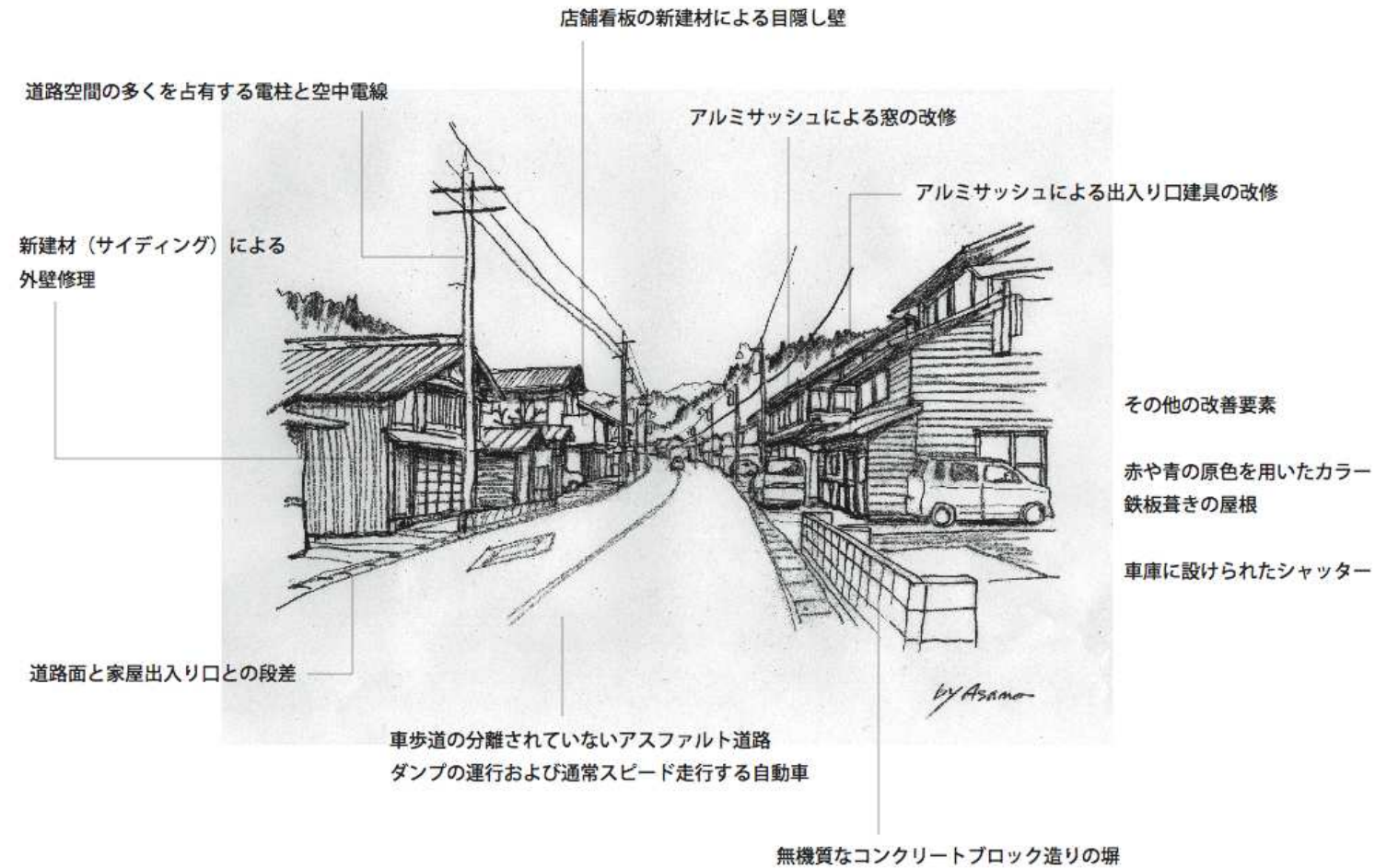


# 吾野宿再生計画案作成



# 吾野宿再生計画案作成

## 吾野宿現況と改善要素



# 吾野宿再生計画案作成

## 吾野宿修景計画



### <修景項目>

吾野宿町並みの統一感を持たすため、屋根葺き材の色は黒灰色系、外壁材は、漆喰または木板張り（柿渋塗り）を基本とする。道路に面する1階開口部の建具は木製とし、2階は木格子にて目隠しを行い統一感を持たせる。

ゴミ置場、クーラー室外機、プロパンボンベ等、日常生活に関わる施設を植栽（常緑樹）や板塀等で目隠しする。

電柱は地中埋設配線として撤去する。

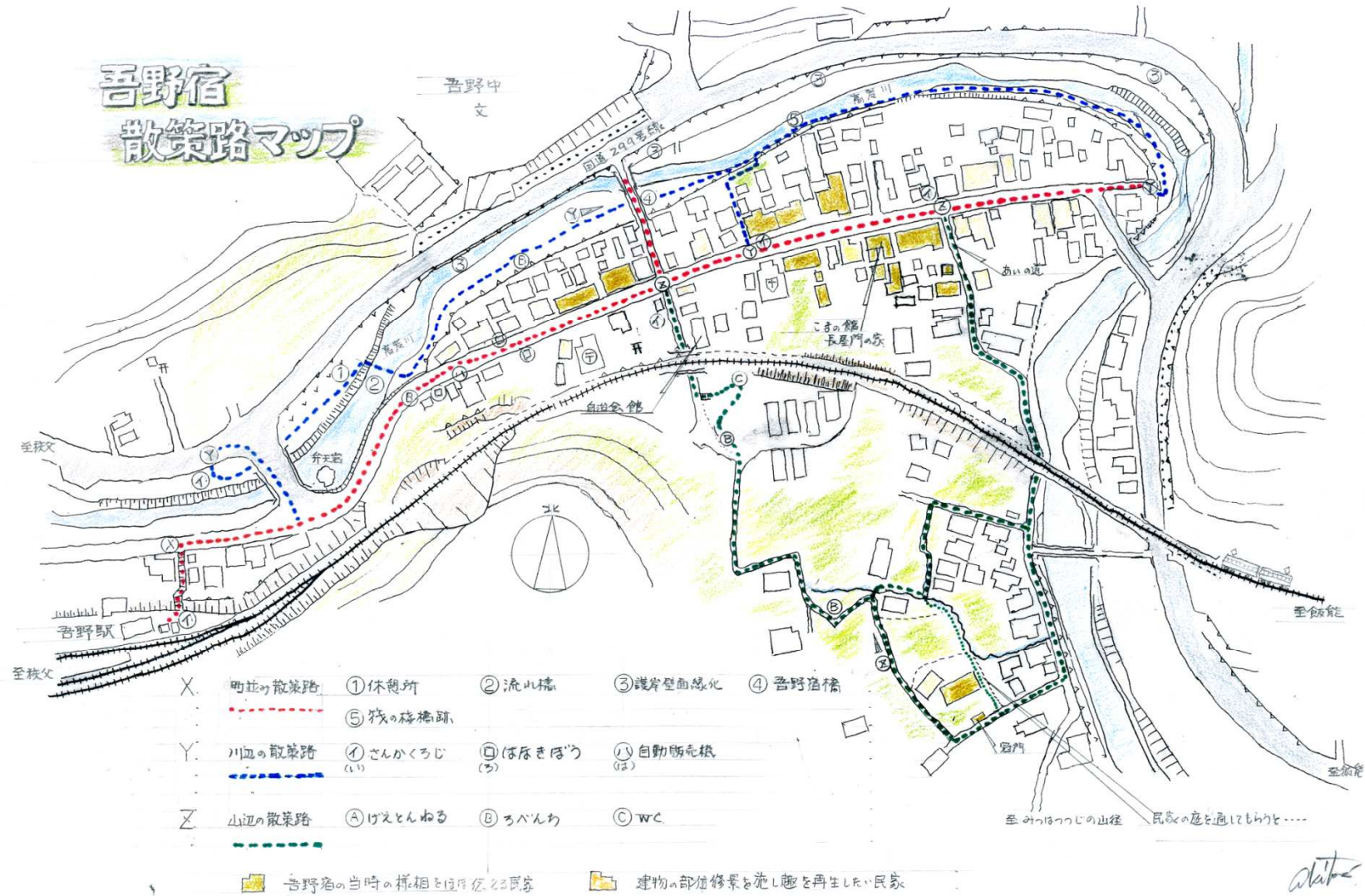
全体的な町並みは、吾野宿に見られる特徴のある出桁造りを生かして統一感を創出するが、武家長屋門の間屋と石田家疑洋風館は、シンボリック扱いとする。

既存家屋出入り口よりも現在のアスファルト舗装道路面が高くなってしまっているため、レベル調整を図りながら石畳み舗装に修景する。自動車通行は住人のみとし（一般車両は通行禁止）歩行者優先道路とする。道路側溝雨水排水路を開渠として水の流れを視覚化する。

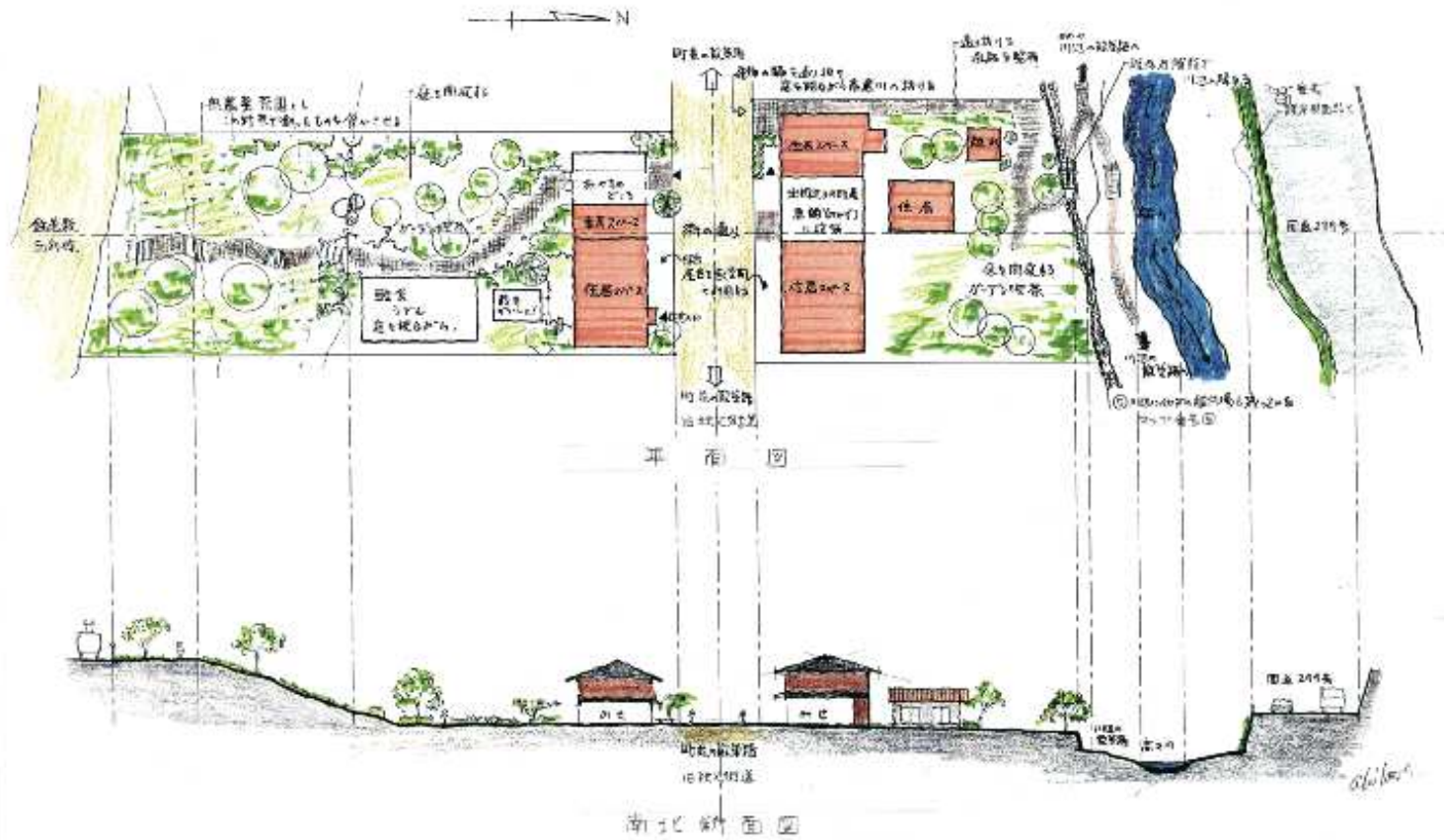
落葉広葉樹の街路樹を植え、夏場の木陰を創出し、木製ベンチを設置し休める場所を確保する。

照明計画やマンホール、看板、案内板等のサイン計画を施す。

# 吾野宿再生計画案作成



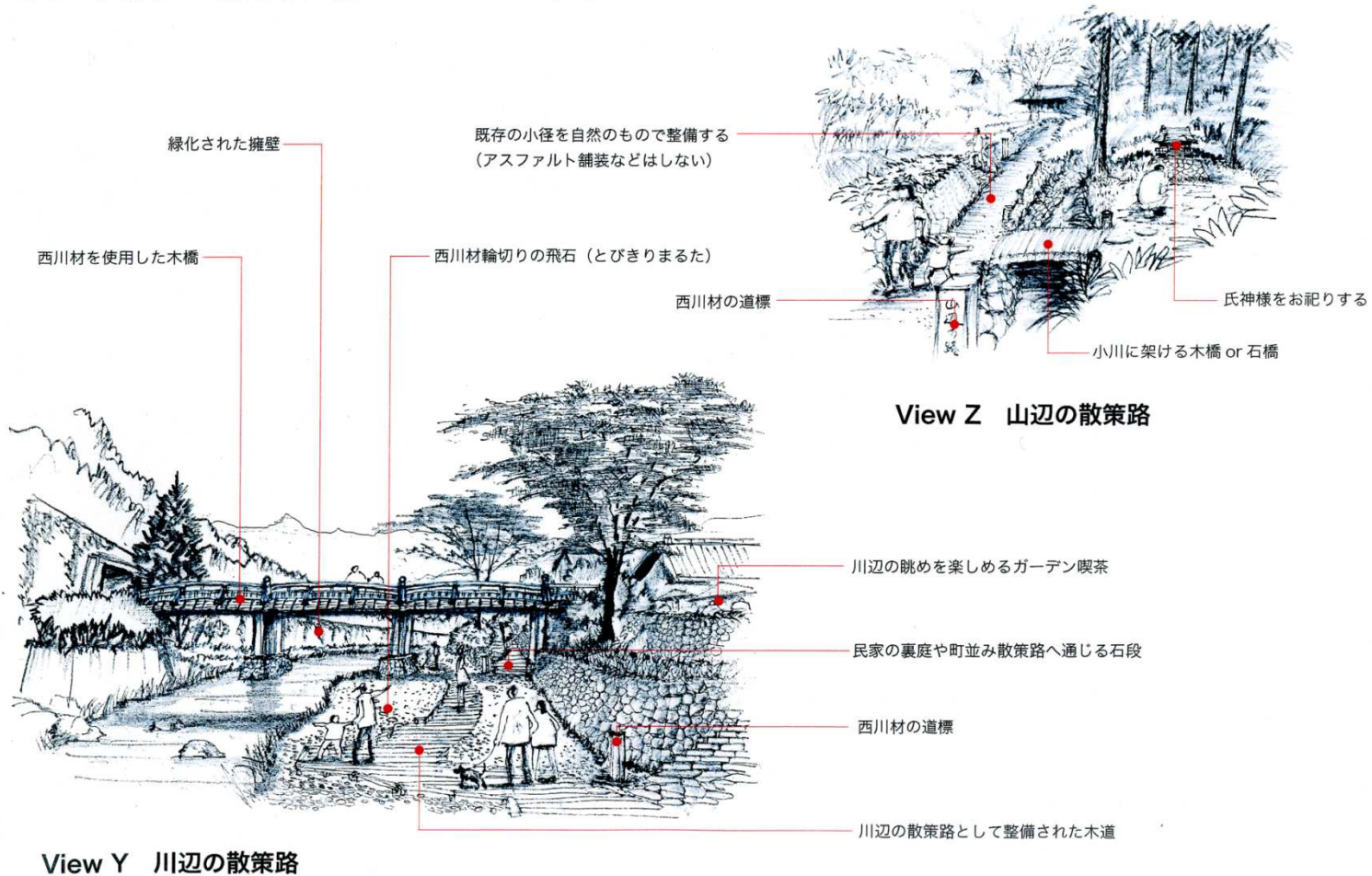
# 吾野宿再生計画案作成





# 吾野宿再生計画案作成

## 吾野宿 散策路イメージ図



by M. Asano

# 市民による「飯能ひな飾り展」の開催(第7回)

